

2022年度 町田市スポーツ推進計画19-28アクションプラン進捗状況(主な実施事業)

基本目標1 スポーツへの参加機会の充実

(1) 子どものスポーツ推進

番号	取組項目			主な取組
	指標	目標値	実績値	
1-1-1	「まちとも」と連携した放課後のスポーツ推進			2021年度に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響により、各学校において「まちとも」と外部指導員との連携を中止していた期間があったが、2022年度に関しては、通常開催できた地区が複数あった。(開催例:スポーツ教室の実施、陸上競技教室の実施など) 新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえつつ、2023年度以降、新たに連携事業の実施が出来るよう調整を重ねていく。
【再掲】 3-1-1	スポーツ推進委員・地域スポーツクラブと連携した地区数	5地区	3地区	
1-1-2	市内10地区のスポーツマップの作成・活用			町田第一地区、町田第二地区、玉川学園・南大谷地区のスポーツマップを作成し、ホームタウンチーム(FC町田ゼルビア)と連携を図り、小学校9校に配布したほか、南地区、高ヶ坂・成瀬地区、相原地区、小山・小山ヶ丘地区についても新1年生を対象に区域内の小学校17校にスポーツマップを配布した。 引き続き、関係各課や関係団体と連携し、2023年度は、新たに3地区(木曽地区、忠生地区、鶴川地区)のスポーツマップを作成する。
【再掲】 4-1-1	スポーツマップを作成した地区数	7地区	7地区	

(2) 働き盛り世代・子育て世代のスポーツ推進

番号	取組項目			主な取組
	指標	目標値	実績値	
1-2-3	家族で参加できるスポーツイベントの開催			20代から40代の働き盛り世代に多く参加してもらえるよう、親子で楽しめるニュースポーツ体験コーナー等を設置した。また、体力テストの測定対象は18歳から74歳までと設定しているが、一緒に訪れた家族全員で楽しんでもらえるように、17歳以下、75歳以上の方の測定用紙を用意したことにより、幅広い年代の方にご参加いただくことができた。 2023年度は、さらに多くの方に参加いただけるよう、ニュースポーツ体験の内容や広報を見直し、新たな企画を検討する。また、包括連携企業をはじめとする様々な団体にご協力いただき、イベント内容のさらなる充実を図っていく。
	市民体力テスト年間参加者数(20歳代～50歳代まで)	年 450人	年 144人	

(3) 高齢者のスポーツ推進

番号	取組項目			主な取組
	指標	目標値	実績値	
1-3-2	温浴施設を活用したスポーツ環境の充実			2022年4月のオープンに伴い、多目的室において一般利用のない時間を活用し、年齢を重ねても気軽に参加できるような簡易な運動の自主事業やトレーニング教室事業を行い、多くの高齢者の方に参加いただいた。また、一般開放では、より多くの方がスポーツに触れ合う機会を創出することに努め、主に卓球・ダンス・武道で、子どもから高齢者までの幅広い世代で施設をご利用いただくことができた。
	温浴施設を活用した事業の実施	実施	実施	

(4) 障がい者のスポーツ推進

番号	取組項目			主な取組
	指標	目標値	実績値	
1-4-1	スポーツ・レクリエーション教室等の開催 ①障がい者スポーツ教室(サン町田旭町体育館、町田市子ども発達センター温水プール) ②指定管理者による教室・イベント事業			体育館における障がい者スポーツ教室は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、6月からの開催となった。密を回避するため集団競技は取り止めたが、個人競技については消毒の徹底により例年と同じ競技(体操、マラソンなど)を行い、3年ぶりに複数回の教室を実施した。 一方、プールにおける障がい者スポーツ教室では、水中でマスクを付けられないなど感染対策が難しいため、密にならない人数での定員を設けて開催した。 指定管理者による教室・イベント事業では、障がい者スポーツの実施が定着し、様々な種目(ユニカール、ボッチャ、パラ陸上など)の教室・イベントを開催することで、スポーツ環境の充実を図ることができた。
	開催回数	①体育館 年36回 プール 年36回 ②年 55回	①体育館 年29回 プール 年22回 ②年 16回	
1-4-2	小学生を対象とした障がい者スポーツ体験教室開催			パラバドミントン教室を市内小学校15校1,235人の児童に対して実施することができた。 加えて、今年度はパラバドミントンインドネシア代表を招いた交流会を実施し、町田第六小学校で57人、総合体育館で実施した交流会で26人の子どもに対してパラスポーツ教室を実施したほか、日本ブラインドサッカー協会と連携し、ブラインドサッカーの体験教室を実施し成人も含む62人が参加した。 2023年度もパラバドミントン体験教室を継続して実施するとともに、パラバドミントンインドネシア代表との交流やブラインドサッカー体験教室を行っていく。
	年間参加者数	年1,000人	年 1,235人	

基本目標2 スポーツに関わる 人材と組織の充実

(1) スポーツを支える人材の育成

番号	取組項目			主な取組
	指標	目標値	実績値	
2-1-1	大学・企業連携によるスポーツを支える人材の派遣			スポーツ教室への講師派遣やイベントへの学生ボランティアの派遣等、各団体とスポーツを支える人材の派遣に関する連携を実施することができた。2023年度以降も、連携の実施に向け、各団体と調整を行う。
	連携団体数	7団体	5団体調整	
2-1-2	まちだサポーターズの活動機会の充実			ホームタウンチームに関連する活動や、庁内各課実施事業などの活動に加えて、まちだサポーターズ自身で企画したイベントの実施や、研修会の実施など新たな取組みを行うことができたので今後も継続していきたい。 また、庁内へのまちだサポーターズの存在の周知を図り、活動機会を増加させたい。
	年間延べ活動参加者数	年3,300人	年 2,552人	

(2) スポーツを支える団体の支援・育成

番号	取組項目			主な取組
	指標	目標値	実績値	
2-2-3	まちだサポーターズの組織化			総務班を増員し、活動体制を継続していくために動き出した。自主企画のイベントを実施し、無事に終了できた。今後も自主企画のイベントを増やしていく。また、スキルアップのための研修も企画し、実施した。引き続きまちだサポーターズと協働し、自主運営事業の支援や人材の育成など、まちだサポーターズの自立化を進めていく。
	まちだサポーターズの育成	活動方針決定	実施	

基本目標3 スポーツ環境の充実

(1) 「する」スポーツ環境の充実

番号	取組項目			主な取組
	指標	目標値	実績値	
3-1-4	公園のスポーツ利用の促進			2022年度は、目標値である新規3地区(玉川学園、南大谷エリア、町田第一エリア、町田第二エリア)におけるスポーツマップを作成し、配布するとともに、2021年度までに作成した4地区分のスポーツマップも合わせて対象地区の小学生に配布した。
	利用方法の見直し	7地区	7地区	
3-1-6	大学・企業連携によるスポーツ施設の市民利用拡大			協定締結団体数は5団体となったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、各団体において敷地内への立ち入り制限があり、利用に向けた調整や事業を実施することが困難な状況であった。 2023年度以降は、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、事業実施に向け、各団体と調整を行う。
	連携団体数	7団体	2団体検討調整	

(2) 「みる」スポーツ環境の充実

番号	取組項目			今後の課題
	指標	目標値	実績値	
3-2-3	パブリックビューイングの実施			市が主体となって実施することはできなかったが、ホームタウンチーム独自の取り組みとして、FC町田ゼルビアが2022シーズン中に、南町田グランベリーパークで3回、ぼっぼ町田で7回、東急ツインズで1回、FC町田ゼルビアクラブハウスで2回の合計13回実施した。 場所や機材等の問題や放映権等の取扱いにより、市が主体的にパブリックビューイングを行うことはできなかったが、今後はホームタウンチームなど様々な団体が行うものに協力する形での実施を検討していきたい。
	年間実施回数	年 3回	年 0回	

基本目標4 スポーツを通じたまちづくり

(1) スポーツ情報の発信

番号	取組項目			主な取組
	指標	目標値	実績値	
4-1-2	スポーツ以外の既存情報発信ツールとの連携			地域で開催するスポーツ教室に関するチラシを、参加ターゲット層にあわせて、高齢者支援センターや子どもセンターなどに設置した。また、親子向けのスポーツ教室のご案内では、まちだ子育てサイトにも情報を掲載することで周知を図った。地域スポーツクラブが作成した自宅でできる運動動画については、町田市総合健康づくり月間の機会を捉えて、発行物に動画サイト誘導のQRコードを提示し、周知を図った。引き続き、他部署や他の団体等との連携を図り、新たな生活様式にも対応したスポーツに関する情報を様々な媒体で発信していく。
	-	実施	実施	

(2) スポーツを通じたシティプロモーション

番号	取組項目			主な取組
	指標	目標値	実績値	
4-2-1	ホームタウンチームと連携したPR活動			Jリーグ、Fリーグの開幕に合わせて町田駅ペDESTリアンデッキの横断幕、タペストリーを設置し、それぞれのチームカラーに装飾を行い、市庁舎内では応援ウィークを実施した。また、ツイッターを活用したチームのホームゲーム情報、試合結果等、チームに関連する情報発信を開始した。 ホームタウンチームを周知・PRできる場所が限られているため、次年度以降はより広く市民へ周知できるように、新たな広報の場の獲得を検討していく。
	-	実施	実施	